

# ミャンマーの子どもたちに読んでほしい！

## 茨城・神栖市立神栖第四中学校が「絵本を届ける運動」に初参加



①つくった絵本を手に、笑顔で記念撮影する生徒たちと石津京子先生  
②位置を合わせてシールをはがします  
③貼る箇所が多いページも  
④すてきな絵本が完成しました

茨城県神栖市の神栖第四中学校（生徒419人）が、ベルマーク財団の「教育応援隊」のひとつ、「絵本を届ける運動」に初参加しました。公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が、紛争や貧困といった状況下のアジアの子どもたちへ届ける絵本に、現地語の翻訳シールを貼るボランティア活動です。

同校は昨年4月にベルマーク運動を始めた新しい参加校。福祉・奉仕委員会の生徒たちが、収集したマークの仕分け・計算を担っています。担当の石津京子先生が「教育応援隊」のチラシを見て応募しました。

8月20日、同校は3日間の「サマースクール」の初日でした。先生が学期中にはない特別授業を用意するもので、そこに「絵本を届ける運動」も組み込まれ、1、2年の23人が受講しました。

絵本は「ええところ」「へいわってどんなこと？」など5種類。貼るシールは、ミャンマーの公用語であるビルマ語です。生徒たちは真剣な眼差しで集中して作業します。ポイントは、シールの文字を囲んでいる枠線の1ミリ程度内側を切り、枠線が残らないようにすること。そして、文字の上下や貼る位置に注意しながら、元の日本語が見えないようにシ

ールを貼ることで。「時間はかかっていいから丁寧にね」と石津先生。

翻訳シールを貼り終えると、今度は巻末に署名シールを貼ります。作業名を、ひらがなとビルマ語で書き込むのです。曲線がつながったようなビルマ語の文字に、生徒たちは「難しい」「もっと字の間隔を空けないと」など言いつつ、対照表を見ながら一文字一文字、気持ちを込めて名前を書いていました。

福祉・奉仕委員として参加した2年の平島雄悟くんは「ベルマーク収集はクラスみんなに呼びかけています。ビルマ語の文字は不思議。たくさんの人に絵

本が読まれてほしいです」とまっすぐな目で答えました。石津先生は「担当する絵本を各々が読んでからの作業でした。生徒たちは一生懸命頑張ったのでは」と振り返りました。大槻豊校長は「みんなのために役立つ活動が、次へのステップにつながります」と話しました。

神栖市は2011年の東日本大震災で津波や液状化の被害がありました。それを機に同校は、復興支援のイベントを毎年開くようになり、さらに昨年からは「神四『絆』プロジェクト」と名前を変えて支援先の輪を広げました。生徒たちによる貢献活動が息づいている学校です。

# 神栖市のマーク、私たちが仕分けます

## 2ボランティアグループが「寄贈マーク」活動

茨城県神栖市では社会福祉協議会に寄せられたベルマークを、2つのボランティアグループが仕分け・集計してベルマーク財団に「寄贈マーク」として送っています。5年前から続くこの活動を担うのが、神栖地域の「鐘（ベル）の会」と、波崎地域の「ベルの会」です。

神栖市は2005年に神栖町と波崎町が合併して生まれました。市の社協は神栖に本所、波崎に支所があります。「鐘の会」（会員6人）は月2回神栖本所で、「ベルの会」（同5人）は月1回波崎支所で活動しています。

取材に訪れたのは8月20日。案内された部屋に入ると、みなさんが揃ってマークを仕分けしていました。2つの会が顔を合わせるのは初めてだそうです。せっかくならと、声をかけ合って作業を始めたそうです。

市社協が寄贈マークを財団に送る際、仕分け・集計を

した方が早く有効活用してもらえると、2014年2月、ボランティアを広報誌で呼びかけたことがきっかけで、両会が結成されました。太平洋に面した神栖市は東日本大震災で被害を受けた経験がありますが、「私たちは暮らせるから幸せ」と、マークは主に東日本大震災の被災校支援のために送っています。

「家事から離れて好きなことができ、息抜きになります」と話すのは「鐘の会」の堀華代子さん。作業中はみな黙々と没頭することが多いそうです。両会の活動は社協の広報誌などで何度も紹介され、昨年「親子のマーク仕分け体験」のイベントも夏に開かれています。

今後については両会とも「健康で仲良く末永く続けていきたい」「もっと作業をスピードアップできれば」などと、意気込みを語ってくれました。



①左から、「鐘の会」佐藤朝子さん、代表の堀華代子さん、徳増順子さん、「ベルの会」代表の斉藤睦代さん、斉藤温子さん、千葉千恵子さん  
②作業は手際よく、脱退した会社のマークもひと目で判別する  
③マークをセロテープでつなぎ止める方法を「鐘の会」が実演した

# プチクマぬいぐるみプレゼント

## ブルボンが来年6月までキャンペーン

協賛会社のブルボン（ベルマーク番号48）が、人気商品「プチシリーズ」を2点買うと、抽選でプチクマぬいぐるみが当たるキャンペーンを実施しています。ぬいぐるみの大きさは全長24cmで青・赤・紫・ピンク・緑・黄色の6色。どの色が当たるかはお楽しみです。

対象は、ビスケットやおせんべい、ポテトチップスなどプチシリーズ全商品。2020年6月23日（火）までの期間中、毎月240名様、総計2,880名様が当選します。毎月23日が締め切り（消印有効）です。

対象商品に付いているバーコードを2枚1口とし、店頭や同社ホームページにある応募用ハガキか、または郵

便ハガキに貼り付けて、必要事項をご記入のうえ、以下の宛て先までお送りください。

〒101-8691 日本郵便株式会社 神田郵便局 私書箱89号 <毎月24日はプチの日「プチクマぬいぐるみプレゼント」事務局>行

詳細はブルボンのホームページで。問い合わせは同社お客様相談センター（0120-28-5605、月～土曜午前9時～午後5時）へ。

プチシリーズにはベルマーク0.8点が付いています。おいしく食べたあとは、バーコードだけでなく、ベルマークもちょきちょきしてください。

